



玉川大学
Tamagawa University

【ELTama 2020】

『論叢』の報告

～卒業生教員アンケート調査結果～

玉川大学文学部英語教育学科

松本博文

2020 玉川大学英語教育セミナー
玉川大学／Zoom
2020年8月22日（土）



目次

1. 研究の概要

2. 卒業生教員アンケート調査

- ① 調査の概要
- ② 英語教員と海外留学
- ③ 英語教員として必要な英語運用能力
- ④ 英語教員の認識する課題と大学教員養成課程への要望
- ⑤ 大学に求められている教員研修・支援

3. おわりに



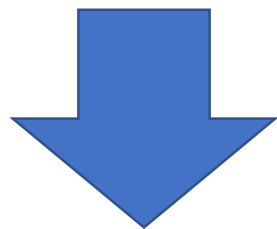
1. 研究の概要



平成31年度／令和元年度 文学部共同研究

工藤洋路・日臺滋之・小田眞幸・米田佐紀子・松本博文・鈴木彩子

「現職の英語教員に必要な能力の可視化の試み
—英語の教員養成と教員研修の有機的な連携体制構築を見据えて—」

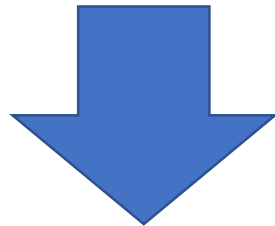


工藤洋路・松本博文・小田眞幸・鈴木彩子・日臺滋之・
米田佐紀子（2020）「卒業生英語教員の実態調査報告」
『論叢：玉川大学文学部紀要』60, pp.1-22.



「卒業生英語教員の実態調査報告」

【目的】 「教員養成および教員養成の実態と課題を明らかにし、今後の養成と研修をどのように改善していくべきかを考察する。



調査①：卒業生教員へのアンケート調査

調査②：卒業生教員へのインタビュー調査



2. 卒業生教員アンケート調査



1. 調査の概要

回答者
(N=29)

表2-1 調査対象者の勤務先の校種

校種	人数	割合
公立小学校	4	13.8%
私立小学校	0	0.0%
公立中学校	14	48.3%
私立中学校	0	0.0%
公立高等学校	9	31.0%
私立高等学校	2	6.9%
公立小中一貫校	0	0.0%
私立小中一貫校	0	0.0%
公立中高一貫校	0	0.0%
私立中高一貫校	0	0.0%
合計	29	100.0%

表2-2 調査対象者の教員歴（臨任等含む）

教員歴	人数	割合
1年目	7	24.1%
2年目-5年目	11	37.9%
6年目-10年目	2	6.9%
11年目-15年目	5	17.2%
16年目-20年目	1	3.4%
21年目-25年目	0	0.0%
26年目-30年目	1	3.4%
31年目-35年目	1	3.4%
36年目-	1	3.4%
合計	29	100.0%



1. 調査の概要

表2-3 調査項目

No.	調査項目	回答形式
1	回答者の海外留学経験	選択
2	英語の授業・指導において困っていることや課題はありますか。	自由記述
3	現在の英語の授業・指導を踏まえて、大学での教職課程において、あったらよかったと思う講義や演習、またその他の活動はありますか。	自由記述
4	英語教員にとって9か月程度の海外留学経験は有用で肯定的な効果があると思いますか。特に現在の英語の授業・指導との関連から教えてください。	選択
5	英語教員にとって9か月程度の海外留学経験は、具体的にどのような点で有用・有効だと（あるいは、有用・有効ではないと）思いますか。特に現在の英語の授業・指導との関連から教えてください。	自由記述
6	大学を卒業して英語教員としてスタートを切る際、少なくともどの程度の英語力が必要だと思いますか。英検の級で教えてください。	選択



- 英語教員と海外留学
- 英語教員として必要な英語運用能力
- 英語教員の認識する課題と大学教員養成課程への要望
- 大学に求められている教員研修・支援

1. 調査の概要

7	大学を卒業して英語教員としてスタートを切る際、少なくともどの程度の英語力が必要だと思いますか。IELTSのOverallスコアで教えてください。	選択
8	大学を卒業して英語教員としてスタートを切る際、少なくともどの程度の英語力が必要だと思いますか。TOEIC® Listening & Reading Test（従来のTOEIC）のOverallスコアで教えてください。	選択
9	大学を卒業して英語教員になった後、英語教育について大学に期待する専門的な研修や支援の機会・仕組みはありますか。（複数回答可）	選択
10	回答者の現在の勤務状況を踏まえると実際には参加・活用できないというものはどれですか。（複数回答可）	選択
11	上の設問で「現在の勤務状況を踏まえると実際には参加・活用できない」と回答した項目について、その理由は何ですか。「特になし」と回答した場合は「特になし」と記入してください。	選択
12	その他に大学英語教員養成課程・研修等へのご要望があれば教えてください。特にない場合は「特になし」と記入してください。	自由記述



2. 英語教員と海外留学

表2-4 「英語教員にとって9か月程度の海外留学経験は有用で肯定的な効果があると思いますか。特に現在の英語の授業・指導との関連から教えてください。」(調査項目4)

選択肢	人数	割合
とてもそう思う	12	41.4%
そう思う	13	44.8%
そう思わない	4	13.8%
全くそう思わない	0	0.0%
合計	29	100.0%



Curriculum
Integration
(cf. Bybee *et al.*, 2018)

英語教育学科の留学プログラム

4年間のカリキュラム

留学プログラム

留学準備
教育

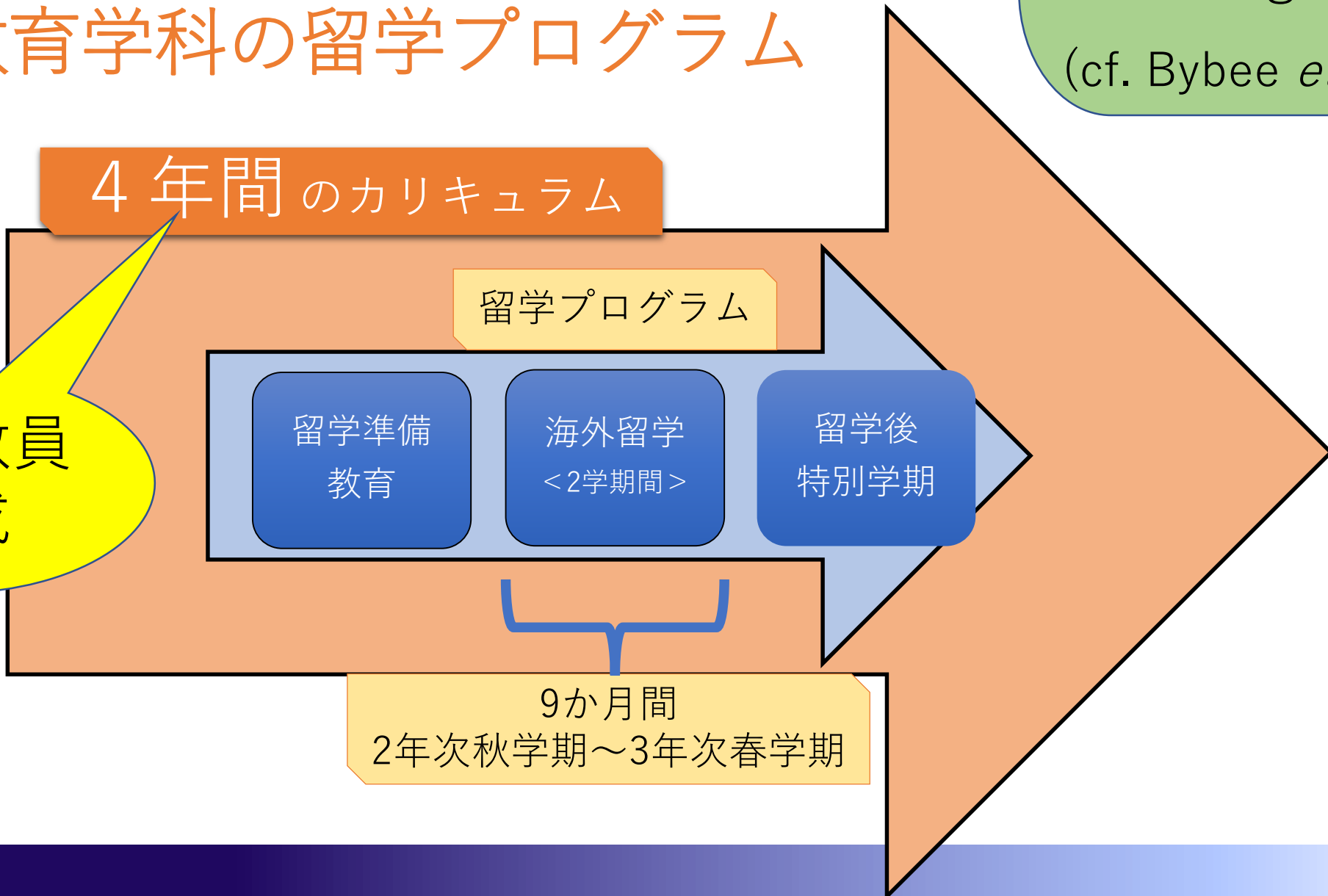
海外留学
<2学期間>

留学後
特別学期

9か月間

2年次秋学期～3年次春学期

英語教員
養成





2. 英語教員と海外留学

表2-4 「英語教員にとって9か月程度の海外留学経験は有用で肯定的な効果があると思いますか。特に現在の英語の授業・指導との関連から教えてください。」(調査項目4)

選択肢	人数	割合
とてもそう思う	12	41.4%
そう思う	13	44.8%
そう思わない	4	13.8%
全くそう思わない	0	0.0%
合計	29	100.0%

86.2%



2. 英語教員と海外留学

表2-5 「英語教員にとって9か月程度の海外留学経験は、具体的にどのような点で有用・有効だと思いますか。特に現在の英語の授業・指導との関連から教えてください。」（調査項目5）

分類項目	回答者数 (N=25)	割合
英語力・英語使用	16	64.0%
異文化経験	14	56.0%
留学経験	3	12.0%
海外の教育現場の知識	1	4.0%
指導法	1	4.0%
人脈	2	8.0%



2. 英語教員と海外留学

表2-6 「英語教員にとって9か月程度の海外留学経験は、具体的にどのような点で有用・有効ではないと思いますか。特に現在の英語の授業・指導との関連から教えてください。」(調査項目5)

分類項目	回答者数 (N = 4)	割合
目的 (意識)	2	50%
英語力以上に必要なもの	1	25%
留学期間 (短い)	1	25%
生徒の留学に関する実情	1	25%
必要な英語力	1	25%



3. 英語教員として必要な英語運用能力

〈大学を卒業して英語教員としてスタートを切る際、少なくともどの程度の英語力が必要だと思いますか。〉

表2-8 英検

級	回答者数	割合
2級	5	17.2%
準1級	18	62.1%
1級	0	0.0%
わからない	6	20.7%
合計	29	100.0%

表2-9 IELTS

スコア	回答者数	割合
5.0	1	3.4%
5.5	1	3.4%
6.0	4	13.8%
6.5	2	6.9%
7.0	2	6.9%
7.5以上	0	0.0%
わからない	19	65.5%
合計	29	100.0%

表2-10 TOEIC® L&R Test

スコア	回答者数	割合
500-595点	3	10.3%
600-695点	2	6.9%
700-795点	13	44.8%
800-895点	2	6.9%
900点以上	0	0.0%
わからない	9	31.0%
合計	29	100.0%



表2-11 「英語の授業・指導において困っていることや課題はありますか。」(調査項目2)

4. 英語教員の
認識する
課題と大学
教員養成
課程への
要望

大分類	分類項目	回答者数	割合
児童・生徒関連	英語力	5	17.2%
	学習動機	2	6.9%
	授業態度	2	6.9%
	英語以外の基礎学力	1	3.4%
授業関連	授業準備	2	6.9%
	授業内容	4	13.8%
授業関連	指導法	12	41.4%
教育環境関連	評価	4	13.8%
	到達目標	2	6.9%
	クラスサイズ	3	10.3%
教育環境関連	教材	1	3.4%
	英語の必要性	1	3.4%
	OJT	1	3.4%
教員関連	意識	1	3.4%
	特になし	2	6.9%



4. 英語教員の認識する課題と大学教員養成課程への要望

表2-12 指導法に関する課題

アクティビティ（ペア／グループ活動）	スピーキング指導
チームティーチング	ライティング指導
40名クラスでのコミュニケーション能力育成	発音指導
英語で行う授業	文法項目の説明
幅広い学力のクラスにおけるレベル設定	ICTを用いた授業



表2-11 「英語の授業・指導において困っていることや課題はありますか。」(調査項目2)

4. 英語教員の
認識する
課題と大学
教員養成
課程への
要望

大分類	分類項目	回答者数	割合
児童・生徒関連	英語力	5	17.2%
	学習動機	2	6.9%
	授業態度	2	6.9%
	英語以外の基礎学力	1	3.4%
授業関連	授業準備	2	6.9%
	授業内容	4	13.8%
授業関連	指導法	12	41.4%
	評価	4	13.8%
	到達目標	2	6.9%
教育環境関連	クラスサイズ	3	10.3%
	教材	1	3.4%
	英語の必要性	1	3.4%
教員関連	OJT	1	3.4%
	意識	1	3.4%
特になし	特になし	2	6.9%



4. 英語教員の認識する課題と大学教員養成課程への要望

表2-13 「大学での教職課程において、あったらよかったと思う講義や演習、またその他の活動はありますか。」(調査項目3)

大分類	分類	回答者数	割合
授業関連	指導法	15	51.7%
	評価	6	20.7%
	授業設計	1	3.4%
教員関連	英語学	1	3.4%
	英語力	2	6.9%
	ICTスキル	2	6.9%
現場経験	現場での活動・参観	3	10.3%
特になし	特になし	5	17.2%



表2-14 「大学を卒業して英語教員になった後、英語教育について大学に期待する専門的な研修や支援の機会・仕組みはありますか。」(複数回答可)(調査項目9)

ID	項目	回答者数	割合
A	特になし	6	20.7%
B	例年8月に実施されている「玉川大学英語教育研究会(通称: ELTama)」(会場は玉川大学)	16	55.2%
C	より頻繁に年3~4回程度実施されるような講演会(会場は玉川大学)	8	27.6%
D	より頻繁に年3~4回程度実施されるような研究会・ワークショップ(会場は玉川大学)	17	58.6%
E	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての英語教育に関する相談・質問(Q&A)	10	34.5%
F	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての英語に関する相談・質問(Q&A)	9	31.0%
G	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての教材の発信・共有	12	41.4%
H	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての意見交換・ディスカッション	7	24.1%
I	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての情報発信・情報交換	8	27.6%
J	夜間や週末の授業により働きながら通える大学院(修士)課程	7	24.1%
K	その他:	2	6.9%

5. 大学に求められている
教員研修・
支援



表2-15 「回答者の現在の勤務状況を踏まえると実際には参加・活用できないというものはどれですか。」(複数回答可)(調査項目10)

ID	項目	回答者数	割合
A	特になし(全て参加・活用できる可能性あり)	5	3.4%
B	例年8月に実施されている「玉川大学英語教育研究会(通称:ELTama)」(会場は玉川大学)	6	20.7%
C	より頻繁に年3~4回程度実施されるような講演会(会場は玉川大学)	14	48.3%
D	より頻繁に年3~4回程度実施されるような研究会・ワークショップ(会場は玉川大学)	12	41.4%
E	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての英語教育に関する相談・質問(Q&A)	1	3.4%
F	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての英語に関する相談・質問(Q&A)	0	0.0%
G	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての教材の発信・共有	0	0.0%
H	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての意見交換・ディスカッション	2	6.9%
I	オンライン(インターネット)のフォーラム等を用いての情報発信・情報交換	2	6.9%
J	夜間や週末の授業により働きながら通える大学院(修士)課程	18	62.1%
K	その他:	1	3.4%

5. 大学に求められている
教員研修・
支援



本学紀要一覧

学部



論叢
玉川大学
文学部紀要



玉川大学農学部
研究教育紀要

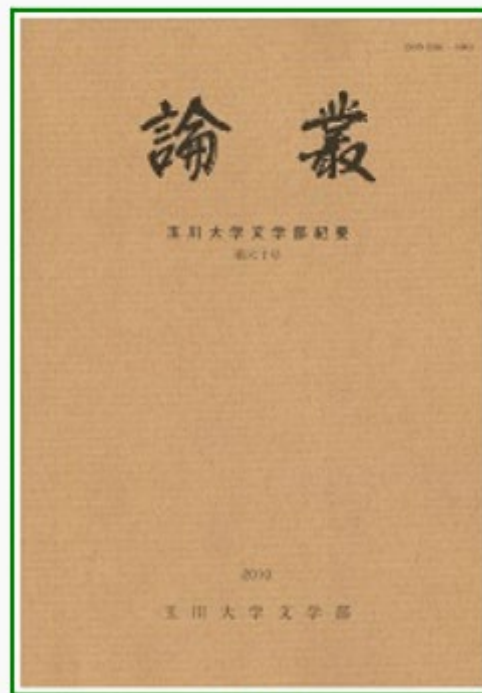


玉川大学工学部紀要



論叢
玉川大学
経営学部

学部



論叢 玉川大学 文学部紀要

<https://tamagawa.repo.nii.ac.jp>

玉川大学教育学術情報図書館
Tamagawa University Library
and Multimedia Resource Center

学術研究所



大学
部紀要



玉川大学
学術研究所紀要



ミツバチ科学
HONEYBEE SCIENCE

WEKO

トップ ランキング

語

▶ 詳細検索 全文検索

Language: 日本語

インデックスツリー

- 学部
- 学術研究所
- 脳科学研究所
- ELFセンター
- TAPセンター
- 大学院

アイテムリスト

学部 ▶ 文学部 ▶ 論叢: 玉川大学文学部紀要 ▶ 第60号

チェックしたアイテムをExport 実行

卒業生英語教員の実態調査報告

A Report on Research into English Teachers Who Graduated from Tamagawa University
工藤 洋路, 松本 博文, 小田 眞幸, 鈴木 彩子, 日暮 滋之, 米田 佐紀子
玉川大学文学部紀要,(60),1-22 (2020-03-31)

pdf

検索

1 - 6 of 6 items

表示数 20

玉川大学学術リポジトリにつきまして

玉川大学学術リポジトリは、収集・蓄積した玉川大学の学術研究成果物をWeb上に無償で公開することにより、本学の学術研究の発展に資すると共に、社会に貢献することを目的としております。2012年10月に公開を開始いたしました。ご利用は著作権法で定められた範囲でお願い申し上げます。

学術研究所紀要の許諾につきまして

著作権法に規定されている私的使用や引用などの範囲を超える利用を行う場合は著作権者の許諾を受けてください。複写に関する権利は(社)学術著作権協会に委託されていますので、複写を希望される場合は事前に(社)学術著作権協会の許諾を受けてください。

To reuse the contents outside the permissible range of the Copyright Law in Japan, please contact each copyright holder. To copy the contents, please contact Japan



玉川大学
Tamagawa University

おわりに



ご清聴いただき
ありがとうございました。